



越智 新さん
Ochi Arata
〔下豊内区〕

佐藤 直樹さん
Satou Naoki
〔広瀬区〕

川上 昇さん
Kawakami Noboru
〔小鹿区〕

平成24年度から甲佐町地域おこし協力隊として本町に移住し、地域力の維持・強化に取り組む。

地域外の人材の力で活性化 甲佐町地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは、地域力の維持・強化を目的として、都市住民など地域外の人材を地域の新たな担い手として受け入れ、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援などの地域協力

活動を行う制度。平成21年度に総務省が創設し、町では、平成24年度から3人を隊員として委嘱した。
広告代理店に勤めていた越智新さんは神奈川県から、バングラデシュで青年海外協力

隊として活動していた川上昇さんは宮崎県から、隊員になる前から宮内地区で農作業を行っていた佐藤直樹さんは熊本から、それぞれ本町に移住。農薬や肥料を使わない自然栽培の農作物を販売する「ボシドラ農園」や地域住民とともに企画するキャンプ・カフェなどのイベントを通じ、都市部に住む住民に本町の豊かな自然や暮らしの良さを発

信するほか、今年度からは甲佐町直売所「ろくじ館」の運営サポート、特に過疎化が進む宮内地区については、地域活動を発展させるためのNPO法人の設立、地域資源を活用した宮内ブランド商品の開発などを、町と連携して進めている。
「宮内地区は、大きな道路も、スーパー、コンビニ、病院、信号もない。不便と思われがちだけど、景色はいいし、食べるものは畑で作ったり、猟に出たりして、実は豊かな暮らしをするための条件が全部揃っている」と話す佐藤さん。少子高齢化が進む中、本町に残る豊かな暮らしや自然環境を維持していくために、3人は奮闘する。
「甲佐町は『クオリティの高い田舎』を目指すのがいいと思う」と3人は語る。「例えば『日本一気持ちよく散歩できる農道』を作って、看板を撤去したり、草刈りや花植えをしたりするのもいい。そうして少しずつ積み重ねていけば、良い町になれる」と地域おこしへの夢を語る。